



専門・認定看護師会だより

2011.11. vol.6.



寒い季節になってきました。節電・省エネという事もあり「湯たんぽ」を愛用する方も増えていると思います。しかし、毎年この時期に「湯たんぽ」でヤケドをする子どもは、あとを絶ちません。「湯たんぽ」は作用時間が長いので、低温ヤケドを起こす事がありますが、注意事項を守れば未然に防ぐ事ができます。



「湯たんぽにご用心」 ～湯たんぽ使用時の低温ヤケド対策と対応～

低温ヤケドは意外に怖い

体温より少し高い熱に長時間触れている事により起こるヤケドが低温ヤケドです。高温によるヤケドは注意しますが、低温ヤケドには油断しがちです。低温ヤケドは、「湯たんぽ」の使い方での起こる事故のなかでも最も多い事故で、ヤケドも深く、重症になる事も少なくありません。

「湯たんぽ」の安全な正しい使い方

1. 必ず70度以下のお湯で使用する
2. カバーはできるだけ付属のカバーを使用する
3. 手作りのカバーを使用する際は、厚い素材で袋状の物にする
4. 直接肌や足には付けず、少し離して足元を暖めるように置いて使用する
5. 熟睡してからは使用しない（痛みや熱さに対する反応が鈍くなっています）
6. 知覚障害のある人にはできるだけ使用しない



レンジで加熱する湯たんぽの注意点

湯たんぽの温度が思ったより熱くないからと再度加熱を加えたり、メーカーの指示を守らずに自己判断で加熱時間を増やす事は、取り出し時にヤケドの恐れや本体が破損して中の溶液が噴出する恐れがあり、とても危険な行為です。注意事項を守り正しく使用しましょう。

もしヤケドをしてしまったら

子どもは大人より皮膚が薄く痕に残りやすいだけでなく、皮膚がひきつれ、動かしにくくなる事があります。「湯たんぽ」などによる低温ヤケドは、深く重症になる事があります。また、皮膚の深い部分がダメージを受けている場合、痛みを伴わない事があるため痛がっていない泣いていないから大丈夫という判断は危険ですので注意が必要です。

ヤケドを発見したら下記で示した対処を行い、受診するようにしましょう。

1. 流水で冷やす

コールドパックや氷を直接あてる事は、凍傷の危険があります。ヤケドで弱くなっている皮膚は脆いので、損傷を受けやすく注意が必要です。使用する場合にはタオルなどで包み、皮膚に直接あたらないようにしましょう。また皮膚が赤くなっていないか確認しながら使用してください。

2. 水ぶくれは、破らない

水ぶくれの中には、ヤケドを治す成分がたくさん含まれています。また、破く事で感染のリスクが高まります。水ぶくれが大きくなりすぎて痛みを伴う場合には、そのまま病院に受診しましょう。

3. 自己判断で薬などをつけない

薬やアロエをつけたり、絆創膏などの処置はやめましょう。悪化させる場合があります。

4. こんな時は救急車

「湯たんぽ」の熱湯が漏れるなどして目、顔、外陰部、広範囲のヤケドを負った場合には、すぐに救急車を呼んでください。